

同 清水 英夫 北海道
同 森脇 恒兵庫
同 工芸科彫金部
同 大伊賀 貞雄 静岡
同 田代 勝彦 福岡
同 内田 慶一 広島
同 海老沢 啓 東京
同 工芸科鍛金部予科
同 大原 泰景 朝鮮京畿
同 山下 恒雄 神奈川
同 山本 直久 富山
同 工芸科鑄金部予科
同 飯田 三美^ミ 茨城
同 門田 光秋 高知
同 中村 精一郎 京都
同 藤本 俊治 大阪
同 浅田 佐一 埼玉
同 岸 武 神奈川
同 宮田 宏平 新潟
同 工芸科漆工部予科
同 若尾 秀樹 大分

同 今泉 政司 東京
同 大岡 健一 石川
同 田中 光 岩手
同 山岸 寿治 京都
同 宮野 光雄 石川
同 齋田 健三 大阪
同 鈴木 秩^キ 愛知
同 建築科予科
同 加藤 寅正 愛知
同 吉川 晴夫 神奈川
同 高橋 一雄 東京
同 武内 芳夫 東京
同 武笠 士郎 埼玉
同 窪田 保彦 大分
同 矢部 行一 新潟
同 山根 基助 島根
同 山喜多 次世志 福岡
同 阿部 允^キ 山形
同 粟冠^カ 康勝 東京
同 木内 於菟^ウ 千葉
同 塩出 秀郎 広島

彫刻科木彫部	彫刻科塑造部	油画科		日本画科		区別
		学生	本科	学生	本科	
七	一五	三	三二	一	一九	予科
七	一七	一	三二		二一	第一年
六	一三	一	三五		一九	第二年
一〇	一二	三	三七		二〇	第三年
七	一四		三〇		一九	第四年
三七	七二	八	一六六	一	九八	計
七	一二		二		四	研究科
四四	八六		一七六		一〇三	小計

④ 各科生徒級別現員表

昭和十八年四月一日

同 森 康二 滋賀
同 師範科第一年
同 石川 勇 岐阜
同 石丸 美作男 岡山
同 原田 鏢^シ 一 愛知
同 浜田 一男 愛媛
同 堀越 政寿 福島
同 大沢 寛 埼玉
同 尾崎 幸雄 東京
同 鎌田 銀次郎 静岡
同 高橋 多一 北海道

同 上田 武 福岡
同 八^ヤ子 一郎 新潟
同 安田 巖 岐阜
同 藤瀬 敬 香川
同 新井 秀一郎 埼玉
同 西光寺 亨 愛知
同 三浦 顯 榮 新潟
同 宮本 浩 和歌山
同 篠田 喜与志 埼玉
同 杉田 浩一 神奈川

総計	師範科	建築科		工芸科					
		特別学生	本科	漆工部	鑄金部		鍛金部	彫金部	図案部
				本科	特別学生	本科	本科	特別学生	本科
一三六一			一六	八		七	六	五	一五
一四一	二一	一	一一	八		五	二	三	一二
一一三	二〇		六	六	一	六	三	三	一一
一四九	一九		八	七		六	三	五	一九
一一六			八	七		六	四	五	一四
六七三	六〇	一	四九	三六	一	三〇	一八	二一	七一
四一				一		六	三	三	三
七一四	六〇		五〇	三七		三七	二一	二四	七五

⑤ 繰上げ卒業式

昭和十八年九月二十三日、前年度と同様に修業年限六カ月短縮による卒業証書授与式（第五十三回）が行われ、同月二十二、二十三、二十四日に日本美術協会において卒業制作陳列会が開かれた。左記はその記録文書の抜粋である。

第五十三回卒業証書授与式次第

東京美術学校

昭和十八年九月二十三日午前十時

一、新卒業生式場着席 (第一號鐘、講堂北ロヨリ出入)

一、生徒式場着席 (同 上)

一、職員參列舊卒業生着席 (第二號鐘、講堂東ロヨリ出入)

一、來賓着席 (同 上)

一、宮城遙拜、靖國神社遙拜、出征將士ノ武運長久祈願

一、君ケ代二唱

一、卒業証書授與

一、學校長式辭 (卒業生前後敬禮)

一、文部大臣祝辭 (同 上)

一、卒業生總代答辭

一、校歌

一、式終了挨拶

一、來賓、職員、舊卒業生、新卒業生、生徒順次退場

第五十三回 卒業生姓名並卒業製作目錄

(順次いろは順 ○印ノ者ハ入營中)

日本畫科

巖 本科 遠山金彌

北國訪春 " 岡部敏也

憩ひ " 武田勘七郎

婦女圖 " 成田尙武

袋掛け " 村永定幸

苺畑 " 梅澤利治